

それが他人の目に留まり、「夢のハーモニー」のための詩や物語を書くことが出来、あれは誰の作品？と反響があると嬉しかった。

出来事としては、「目に留まる」、「書くことができる」、「反響がある」、「嬉しかった」が並んでいます。日本語ではこれだけ並べて表現することは多々ありますが、英語では通常そこまではしない方が好まれます。なので、2つに切って、2文として、表現します。

ちなみに入試の解答として、ここまでは判断できなくてもいいと思いますが、文が複雑にならずに、すっきりかけるので、お薦めです。

**A. それが他人の目に留まり、「夢のハーモニー」のための詩や物語
 を書くことが出来、**

この中にも2つの出来事が入っています。それをバラバラに表現し、最終的には、and で結ぼうと思います。

(a) それが他人の目に留まり、

述語を探します。「目に留まる」から、see が浮かびやすかったかもしれませんが。様々な用法がありますが、それを選択するために、ここでの「それ」を明瞭にします。下線部前あたりを参考にイメージを浮かべてみると、「空き時間はすすんでそのために使った」の部分ですね。「カリカリペンを走らせている」感じがしました。**【誰かの行為を目にする】**場合、

・ S see A DOING 「S は A が DOING しているのを見る」

が便利です。これを利用することにしました。

(1) S see A DOING

【見ている主体】である S には「他人」です。とはいえ**【赤の他人】**ではありません。**【知り合い】**や**【同僚や取引先の人】**です。a coworker や a colleague など候補があり、どれも使えますが、ここでは a person I know くらいにしておきます。

(2) a person I know saw A DOING

【見られている対象】である A には me を、そして**【見られている行為】**である DOING には writing を入れます。この write は、

・ S write A 「S は A を書く」

で使うことが多いですが、**【書かれて出来上がるもの】**である A が、文

脈上不明の場合、ただ、

・ **S write 「Sは書く」**

を用いることが多いので、ここではそれを採用し、**writing** の後ろに何にも入れないことにします。

(3) **a person I know saw me writing**

(b) 「夢のハーモニー」のための詩や物語を書くことが出来、

a. 詩や物語を書くことが出来、

この部分のイメージは、ただ「できた」のではなく、【「他人」の存在のおかげで】という感じがします。このように、【誰かの存在で、何かを達成できるように導かれる】ようなイメージは、

・ **S encourage A to DO 「SはAがDOするのを促す」**

が使えます。今回はこれでいきます。

(4) **S encourage A to DO**

「促している主体」である **S** は「他人」です。2回目なので、代名詞を使います。どうやら過去の経験らしいので、書き手にとって、性別は明瞭なはずですが、しかし、翻訳する側にはそれが分かるはずがないので、適当に、**he** もしくは **she** を使います。ここでは **she** にします。【促される対象】である **A** には【これを書いている人】が入ります。**me** ですね。【促される行為】である **DO** には **write** です。

・ **S write A 「SはAを書く」**

を DO に入れていきます。

(5) she encouraged me to write A

【書いた後に出来上がるもの】である A に入るのは、日本語を参考にする
と、「詩」と「物語」です。イメージでは一つだけ書いている感じでは
ないので、poems and stories とし、A に入れます。

(6) she encouraged me to write poems and stories

b. 「夢のハーモニー」のための

修飾語句は、つなぎの表現からですね。

・ for A 「A のための」

は浮かべやすかったかもしれませんが、A にはラジオ番組名を入れるの
ですが、ここでいくつか方法があります。

(7) for A

一つ目は、そのままタイトルを入れてしまうという方法です。この場
合、「夢のハーモニー」を英語にするだけです。もう一つが、「夢のハー
モニー」が何なのかの説明を入れるという方法です。この場合、

・ a radio program, “A” 「A というラジオ番組」

という形をとります。どちらでもいいと思いますが、ここではこれを
採用しました。

(8) for a radio program, “A”

タイトルの訳出です。これは、映画のタイトルづくりが参考になると

思います。**そのまま直訳** (“One Flew Over the Cuckoo’s Nest” → 「カッコーの巣の上で」) でもいいですし、**内容を反映したもの** (“Frozen” → 「アナと雪の女王」) でもいいと思います。**そのまま音を翻訳する場合** (“Rocky” → 「ロッキー」) もあると思います。

ここでは直訳を使って、**Dreamy Harmony** とします。表記としては、前置詞や冠詞などを除いて、それぞれ大文字はじまりにするというのが大原則です。

c. a. + b.

少し寄り道してしまいましたが、出来上がったものを (6) **she encouraged me to write poems and stories** の後ろにつけます。

(9) **she encouraged me to write poems and stories for a radio program, “Dreamy Harmony”**

(c) (a) + (b)

(3) **a person I know saw me writing** と(9) を , **and** でつなげます。

(10) **a person I know saw me writing, and she encouraged me to write poems and stories for a radio program, “Dreamy Harmony”**

並べた 2 つの文の主語が同じ人を指しています。こういった場合、2 番目のほうを表現しないのが普通です。なので次のようにしました。

- (11) a person I know saw me writing, and encouraged me to write poems and stories for a radio program, “Dreamy Harmony”

B. あれは誰の作品？と反響があると嬉しかった。

述語から攻めます。

- (a) **嬉しかった。**
-

「嬉しかった」をヒントに happy です。

- ・ S is happy 「S はうれしい」

です。「喜んでいる主体」である S には【これを書いている人】が入りません。I です。

- (12) I was happy

(b) あれは誰の作品？と反響があると

修飾語はつながぎの語句から探します。

a. (S) (V) すると

日本語ではつながぎの語句は末尾につくことが多いので「と」に着目します。この「と」は、「反響がある」【場面】を表しています。このように、【場面】を導入するつながぎの表現は、

- ・ when (S)(V) 「(S)(V)するとき」

です。

(13) when (S)(V)

b. あれは誰の作品？と反響がある

(S)(V)を作るので、また述語に着目します。日本語では「反響がある」となっています。ぱっと思いつくのは **react** です。もしかしたら使えるのかもしれませんが、**react** のうしろに、引用符を用いたセリフが置いてあるのを見たことがありません。なので、別の表現を探すために、イメージをしっかりと浮かべることにしました。

そうすると、名も知らない人たちが【「誰の作品？」となっている】のが浮かんできました。ここで使えそうなのが、**ask** です。これなら、

- ・ S ask, “(S)(V)” 「S は『(S)(V)』と尋ねる」

を使うので、セリフも十分回収できそうです。ちなみに、

- ・ S ask A, “(S)(V)” 「S は A に『(S)(V)』と尋ねる」

の場合、ここではだれに尋ねたか、答えが出なさそうなので、避けました。

(14) S ask, “(S)(V)”

【尋ねている主体】である S には【不特定の人】が入ります。someone にします。【尋ねている内容】である (S)(V) は、日本語で言うと「誰の作品？」の部分です。これも述語から探してみると、イメージ的には、【ワープロでカチャカチャしている】様子が浮かんできます。

・ S write A 「S は A を書く」

ですね。【書いた主体】である S は、不明で、ここを問うているので who、【書いた後に出来上がるもの】である A には、「作品」という日本語から、a work を引っ張り出します。「あれ」のように指示があるので、that work にして、A に入れます。

(15) someone asked, “Who wrote that work?”

c. a. + b.

(13) で用意した when (S)(V) の (S)(V) に (15) を入れます。

(16) when someone asked, “Who wrote that work?”

(c) (a) + (b)

when (S)(V)は、それが修飾する文の前に置いても後ろに置いてもかまいません。今回は、後ろに置くことにしました。

(17) I was happy when someone asked, “Who wrote that work?”

C. A. + B.

予定通り、そのまま並べておきます。

(18) A person I know saw me writing, and encouraged me to write poems and stories for a radio program, “Dreamy Harmony.” I was happy when someone asked, “Who wrote that work?”

Model Answer

A person I know saw me writing, and encouraged me to write poems and stories for a radio program, “Dreamy Harmony.” I was happy when someone asked, “Who wrote that work?”